

結城農業かわら版

第148号 令和4年10月20日発行

TEL 0296-48-0184 FAX 0296-48-2682

HPへアクセス↑



県西3地域による農業学園広域講座「土づくり講座」開催しました

9月30日(金)、坂東普及センターにて農業学園の県西広域講座を開催し、各地域(筑西・坂東・結城)の学園生19名が参加しました。講座は3部構成で行われ、第1部では土壌の性質や病害虫について、第2部では各種肥料成分が作物に及ぼす影響について、第3部では1部・2部を踏まえた土壌診断の必要性について学びました。講座後には「土壌診断の重要性について学ぶことができた」、「土壌の種類について、成分別の特徴を把握することができた」と学園生から感想があり、土壌に関する知識を学ぶことができる有意義な講座となりました。



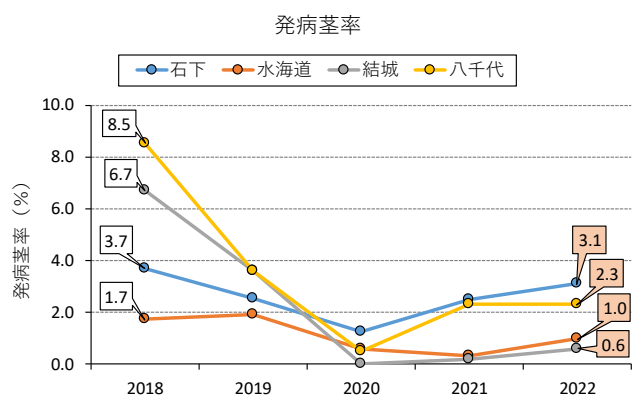
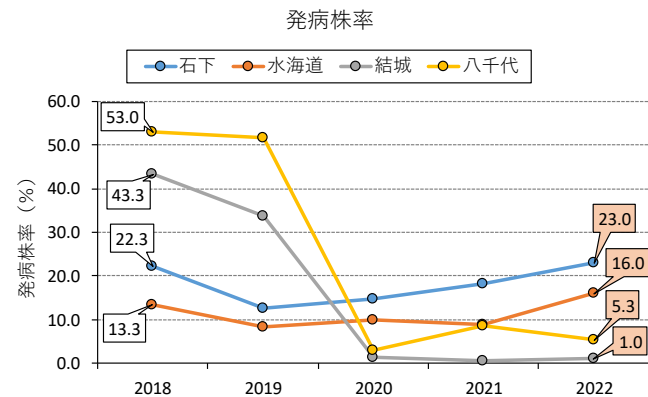
イネ縞葉枯病の管内発生状況と対策について

イネ縞葉枯病(以下、縞葉枯病)はヒメビウンカが媒介するウイルス病で、近年県西地域を中心に被害が拡大しています。縞葉枯病の被害程度は、その年のヒメビウンカの発生状況や地域、栽培している品種、薬剤処理によって異なります。そのため、出穂期頃の自分の圃場の被害状況を確認して、発病が多いときは下記のような適切な対策を講じましょう。

【管内の発生状況】

発病株率とは、圃場内に占める1株の中で1茎以上発病しているイネの割合です。本年は、石下>水海道>八千代>結城の順に被害が大きく、特に石下と水海道では2018年の時よりも高い水準となっています。

発病茎率とは、圃場内に占める1株の中で発病している茎の割合で、この割合が減収率の指標となります(発病茎率が5%ならば5%程度の減収)。本年は、石下>八千代>水海道>結城の順に被害が大きく、特に石下・八千代では高止まりしている状況です。



【今後の対策】

年内には秋耕と畦畔除草を実施してください。刈り取り後のひこばえや水田畦畔のイネ科雑草はヒメビウンカの越冬場所となるため、耕種的防除で居場所をなくしましょう。また、次年度には縞葉枯病に抵抗性を持つ品種(「ふくまる」・「にじのきらめき」・「あさひの夢」・「ほじるし」など)の導入や、新規成分(「トリフルメゾピリム」・「フルピリミン」)の入った箱施薬剤を用いることで被害の低減が期待できます。本年に被害が大きかった圃場では、前述の対策に加え6月中・下旬頃に空中散布等の本田防除を行うことで、自分の圃場だけでなく、地域の発生密度を低減することができます。

年内
秋耕
畦畔除草



移植時期
抵抗性品種
箱施用剤



6月中・下旬
本田防除



農作物の盗難に注意しましょう！！

近年、生産者の方々が丹精込めて作られた農作物が盗まれる被害が全国各地で起きています。生産者の皆様にとっては、営農意欲を失わせる深刻な事態です。盗難被害に遭わないよう、農作物の保管・管理に気を付けましょう！

～対策のポイント～

- ① 収穫物は畑等に放置せず持ち帰る。
- ② ハウスや保管庫等について、窓や出入口の施錠を徹底する。
- ③ 道具（収穫用コンテナや脚立等）は、盗難に利用されないよう園地からこまめに撤収する。
- ④ 侵入者を見分けるために、作業者は腕章、農作業車両にはステッカー等の目印を着ける。
- ⑤ 園地にネットや柵等を設置し、侵入しにくい環境を作る。
- ⑥ 園地に「盗難注意」「立入禁止」「農薬散布直後」等の看板やのぼり旗を設置する。
- ⑦ 防犯カメラ、センサーライト等を設置する。
- ⑧ 通行人から見える位置に「防犯カメラ作動中」等のステッカーや看板等を設置する。



防犯カメラの設置



ステッカーの貼り付け

参考：農林水産省のHP「農作物の盗難防止対策を実施しましょう」
URL：<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/tounan.html>

やさいメモ やさいのちょっとした豆知識～ホウレンソウ編～

ホウレンソウはアカザ亜科ホウレンソウ属の野菜で、原産地はペルシャ地方とされています。ヨーロッパやアメリカなど世界的に各地で食用とされている野菜で、日本には江戸時代の初め頃に伝わったとされています。漢字で書くと「菠薐草」、「法蓮草」、「鳳蓮草」などいくつも書き方があります。

ホウレンソウの品種は大きく分けると東洋種と西洋種の2種類があります。東洋種は葉の切れ込みが深くとがった形をしており、アクが少なく、お浸しなどに向いています。西洋種は葉は切れ込みがなく丸みを帯びていて、少し厚みがあります。あくが強くソテーなどに向いています。

現在市場に出回っているもののほとんどは、上記の交雑種で、両方のいいところを残しています。



編集後記



この時期になると学生時代、八甲田山で遭難しかけたことを思い出します。友人と紅葉を見に登山したのですが、8合目で急な降雪に見舞われ、とっさの判断で登頂をあきらめ下山しました。あのまま登っていたら…と思うと今でも少し怖くなります。皆様にもあの時こうしていたら…という経験はありますか？（小沼）

～農薬の適正使用を心がけましょう～

